



A



B



C

■ 八千代市国際交流協会ニュース

くりっぴー 《cliP》

第14号

■発行日/2018年12月15日 ■発行・編集/八千代市国際交流協会(事務局/〒276-0027八千代市村上団地2-9-103 八千代市多文化交流センター内 TEL・FAX 047-752-0593 メール:yia2006@world.zaq.jp) 勤務日/火曜日・木曜日午前9時~午後4時 印刷/金子印刷企画



D



F



E

2018年度日本語教室に 21か国、延べ475人の外国人の皆さんが参加

現在、村上公民館で3教室、八千代台東南公共センターで4教室、阿蘇公民館で1教室、高津公民館で1教室の9教室で日本語教室が開催されています。この日本語教室に通う外国人の方々は21か国延べ475人です（2018年4月～9月）。中でも村上団地では早くから外国人の方々が多く居住されていたこともあり、一番最初に開設されたのが村上公民館の「村上月曜会」です。今回は、この「村上月曜会」が行っている事業への取組み方などについて日本語ボランティア部会の森野がご紹介します。

■ 疲れた体で日本語を学習 村上月曜会の学習者は延べ120人

学習者のほとんどは、弁当・おにぎり・サンドイッチ・お菓子工場、部品メーカーの下請け工場、商品発送工場、クリーニング工場、介護施設の介護職員等の多岐にわたる職務に就いて働いている人たちです。日本経済のみならず地域経済の基礎を支えてくれている人たちです。

交替シフト制で、しかも時給の高い夜間勤務の人も多くおり、毎回続けて来られない学習者も多くいます。目をこすり疲れた体で日本語の勉強に来るこれらの学習者には、頭の下がる思いがします。学習者の目的も幅広く「話す」「聞く」だけを目的にしている学習者や「読む」「書く」までを目的とする学習者とが混在しています。

あいさつや自己紹介すらできない日本に来たての学習者には、すぐに使える日本語、簡単なコミュニケーションができる日本語を根気良く丁寧に教えています。ひらがな、カタカナ、カレンダー、時計、そして物を数える時の助数詞で「いっぽん」「にほん」「さんぽん」、「ほん」「ほん」「ほん」と変化してしまう日本語は初級の難所の一つです。それでも、それらを乗り越えて日本語能力試験（Japanese Language Proficiency Test）にチャレンジする学習者もいて、N5・N4・N3・N2・N1と進んで行く人もいます。村上月曜会の日本語教室には、フィリピン、

ベトナム、ブラジル、ペルー、韓国、台湾、中国、タイ、スリランカ、ネパール、オーストラリアなど多くの国々の人々が学習に来ています。その学習者数は延べ120人です。（2018年4月～9月）

かつての日本人もそうであったように、ルームシェアをしながら働いたお金を母国の親や弟妹に送金している人も多くいます。母国へ帰って日本企業に就職したいと目を輝かせる若者もいます。そういう真面目で勤勉な人たちの手助けができ、日本に来て良かった、日本で働いて良かった、何の隔てもなく日本社会の一員として、地域社会の一員として共に手を携えて日本を支えていくという人材になってもらいたいと願う時、日本語ボランティア教師の大いなる喜びとなるのです。

■ 習いたての日本語で学習者同士が交流 教材は先生一人ひとりの手作り

駅や町中で「センセ・オハヨ・ゴザイマス」「シゴト・イキマス」などと声を掛けられた時などは、一日が明るくなる思いです。そのような学習者たちを7人のボランティア、美川、入江、長尾、増子、関谷、飯泉、森野で対応しています。その日によって先生が変わってしまったり、学習者の人数が変わったりということがないようにできれば、一人の学習者に一人の教師で対応できればと願っています。

村上月曜会では、先生方は9時45分には教室に来て、机や椅子を並べながら学習者の出欠の確認、短いミーティングをしてから授業に入ります。授業の中ほどでティータイムを取り、習いたての日本語を使い学習者同士の交流もできるよう心がけています。教材は「みんなの日本語」（スリーエーネットワーク）を主に使っていますが、先生一人ひとりの手作り教材やその他「地図」「絵本」「カルタ」なども活用しています。

また、日本語だけを教えているのではなく、日本文化の一環としてお正月（駒・羽根突き）、節分（豆まき）、



▶ スマートフォンを使った学習も



▶ 真剣な眼差しで授業を受ける学習者たち

ひな祭り（折り紙）、端午の節句（鯉のぼり）、七夕（短冊作り）、忘年会（多宗教であるためクリスマス会とは呼びません）などで季節季節の行事もやっております。そして、それに伴う歌を歌ったり、お国の歌を歌ってもらったりと、楽しく学習を盛り上げています。

ボランティア教師のノウハウなどを活用し、若い人の育成に積極的に取り組むことが大切

近年、学習者は当教室でも増加傾向にあり、先般、菅義偉・官房長官は2018年9月26日の講演会の中で、外国人労働者の受け入れ拡大を表明され、十数業種を対象に2019年4月から開始したいと話されていました。この外国人労働者問題は、八千代市のみならず各自治体の大きな課題となっていくことでしょう。

今、八千代市には2018年9月末現在、71か国5,274人の外国人が居住されています。八千代市はこれら若者、家族を含めた二世、三世先までも見据えた先駆的な施策を打ち出すべき時に来ているのではないのでしょうか。

八千代市は最小費用で対応しようとするあまり、ボランティア教師頼みとなっていますが、これからの社会の

流れの中では、それでは限界があると思います。今のボランティア教師のノウハウを活用し、日本語教師の裾野を広げ、若い人の育成に積極的に取り組みたいものです。

そのためには、市も予算を拡充し、それ相当の手当でも支給すべきではないかと思えます。日本語教師側も専門コースを設け—生活日本語コース—小・中学生日本語コース—JLPT受験コース—ビジネス日本語コースなどを設けてはどうでしょうか。

そして更に表現や文脈ことばを簡略化した「やさしい日本語」の研究にも対応したいものです。また、外国人を雇用している企業には日本語学習賛助金を拠出してもらうなど、施策も打ち出してもらいたいものです。とは言っても現状では、生活日本語、毎日の日本語、草の根交流の日本語が重要ですので、我々日本語ボランティア活動員は、その自負を持ち、これからも活動していきたいと思っております。

市民の皆様もこの大きな社会の変化と流れを正しくご理解くださり、日本語ボランティア活動にご支援、ご協力をいただければ幸いです。（日本語ボランティア部会／森野豊作）



◀ レベルが違う学習者に四苦八苦の講師

▶ 勉強が終了し、皆さんで記念撮影



姉妹都市タイラー市親善訪問団員を2019年5月ごろに一般募集

八千代市国際交流協会では、ローズフェスティバルなどに参加し、姉妹都市タイラー市との交流を行う親善訪問団員を2019年5月ごろから一般募集します。

- 日程／2019年10月中旬
- 資格／姉妹都市に関心を持つ市内在住または在勤の健康な人
- ・8月に予定される説明会及び準備会に参加でき、全行程を一緒に行動できる人
- 費用／未定(前回訪問時は35万円程度。保険代・パスポート・

ESTA取得費などの個人的経費は別)

問い合わせ／八千代市国際交流協会事務局（電話・ファク

ス：047-752-0593／メール：yia2006@world.zaq.jp ※勤務日は火・木曜日午前9時～午後4時）(国際姉妹都市部会)



▲前回は2015年10月にタイラー市を訪問

2018年度タイラー姉妹都市委員会の役員は次のとおりです

今年度の役員が下記のとおり決定したとの連絡がタイラー姉妹都市委員会よりありました。(敬称略)

- 会長：ラス・ジャクソン 副会長：ブレント・ベンバートン 事務局：空席
- 会計：マーク・クリズマニック 理事：インドレ・ペンバートン／ブディ・ホランド／バーバラ・キング／オクタビオ・テレッツ／シャリー・リー／ノーマ・ネイダーホファー／クラーク・リン／ミッキー・シュリンプ／ジャマル・モハラー／グリーン・ヴァン・デューク／テレサ・ケネディー（国際姉妹都市部会）

「タイラー市の横顔2018」を発刊しました

内容は、姉妹都市タイラー市の概要・市の歴史・医療及び教育・タイラー市政などです。市内の図書館で見ることができます。(国際姉妹都市部会)



協会の問題点について もう一度、考えてみませんか？

今、会員が高齢化してきていること、予算が少なくなっていること、当協会は結成されて12年経ちますが、この協会を知っている人は知っていますが、知らない人知らないということと、市との関係はどうなっているのかなど問題点が多く見られます。

そこで今回、問題点などを議論していただき、もう

一度、当協会のあり方について見直していただきたいと思います。お集まりいただいた方々は、国際姉妹都市部会の高橋雅昭氏、日本語ボランティア部会の鎌田久美子氏、語学ボランティア部会の喜田茂氏、国際交流促進部会の花島美記氏の4人です。司会は事務局の三橋伸一郎氏です。

■ とにかく市はもっと 財政面で支援をしてほしい

司会 現在の当協会を見て、どなたかこういう問題点があります、ということでお話しをお願いします。

喜田 まず、姉妹都市まで行くのも来るのも結構お金がかかります。オプションツアーを含めると40万円を超えます。するとこの金額を出して行こうという人は果たして何人いるかということです。そうすると、やはり市が始めたのですから、ある程度市の財政的な支援がないと本来はおかしいです。全てが民間の有志活動で始まっていたら、何も市の援助を受ける必要はないけれども、市議会が決議してやっていきましょうとなると、もう少し財政的な支援があったてもいいかなと思いますね。

花島 実は私も喜田さんと同じことを考えておりました。市として国際交流協회를どのように考えていらっしゃるのか、協会の認知の不足、高齢化、会員の減少というのは、協会だけの問題ではないと思っております。国際交流を八千代市としてどのように進めていくのか。友好都市タイ王国との交流は、教育委員会の管轄とのことです。八千代市として迎え合う外国の皆さんというくりでは同じだと思いますので、協会としてももう少しタイラー市だけでなく、タイの皆さんとの関わりも深めた方がよいのではないのでしょうか。協会内の一体感、市の中の一体感に対して疑問を感じております。

高橋 私はこの会に入って3年半。過去に対するしがらみはほとんどないです。ですから白紙の目で見るとき、この会は国際交流という外向きの会だと思いましたが、ところが外の交流はいいとしても、中の交流があまりないのではということに気づきました。部会は4つありますが、それが壁となり、それが縦割りになっている気がし

ます。もう少しオープンで組織内の交流を図った方がよいのではないのでしょうか。そうするといろいろなアイデアが出てきます。どうやって人を集めるかということは、八千代市だけの問題ではなく、県下の国際交流協会、多分これは全国的な交流協会の課題ではないかと思っております。それだけ難しい課題を今回やろうとする時、皆が知恵を出し、いろいろな人の協力をもらわないと進まないと思います。

鎌田 理事会に毎回出られるわけではないのですが、協会を動かしていく理事会というのが、なかなかあまり機能していないなとすごく感じます。新しい提案をしてもはっきり言ってスルーされたりとか、そういうのも全然なく、「はあ」みたいな感じで新しいことをやる、何か新しいことについて考えるというのがどうも動かない、そんな印象です。

喜田 会長以下、副会長も含めて打ち合わせをし、それを理事会に持っていくという方法が一番いいと思います。その理事会そのものがおざなりになってしまっている気がしますね。何度かどうですかという話もしましたが、まだ改善しておりません。

■ 会員の経済的負担を 市は認識されていないのでは？

鎌田 会員になるとこんな良いことがあるよとか、大きなことではなくとも良いと思います。ちょっとしたことでも、こういうメリットがあるよというのは、やはり必要なことです。

高橋 確かにおっしゃるとおりで、メリットを書かなければ楽しいこととか、口込みで広まりませんからね。良く分かりにくいのは、市の国際推進班です。我々の協会とどこでどう線引きをしているのか分からないですね。

■ 2018年度の収支予算は次のとおりです

【収入】 1. 会費-400,000 2. 補助金-1,100,000 3. 繰越金-18,389 4. 雑収入-101,611 合計1,620,000

【支出】 事業費／1. インターナショナルデイ-285,000
3. 広報事業-196,000 4. 部会事業費-(1)国際姉妹都

市部会-40,000 (2)語学ボランティア部会-72,000 (3)日本語ボランティア部会-200,000 (4)国際交流促進部会-60,000 (5)各部推進業務-425,000 事務費／1. 賃金-132,000 2. 需用費-55,000 3. 役務費-145,000 4. 負担金-10,000 合計1,620,000 (単位：円) (事務局)



▲これからますます必要となる「若い力」

行動レベルでの線引きです。いっそのこと、予算を付けて市の外郭団体にしたらどうですか？

喜田 初めはもっと予算がありましたね。要するに人件費が多過ぎるとなり、ガタッと落ちました。人件費は80万円くらい。ところが他市は国際交流協会に市の職員が就いたりしています。船橋市、千葉市、習志野市だって市の職員がいます。当市は協会に丸投げし、なおかつ金は出すけど文句も言うという感じになっていますから、それがいろいろな意味で矛盾しています。市がやらなければならない部分はたくさんあります。例えば日本語教室は、ほとんどがボランティア。会員の皆さんがどれだけ多く経済的に負担をしているのが良く分かります。市の方もあんまり認識なさっていないのでは、という感じですか。

高橋 高校生などの若い会員を集めるには、いろいろな人の協力を得なければいけない。一つは教育委員会へのアプローチ。学校関係者へのアプローチ。それと縁のある顔の利く人、こういう人たちを利用していかないと、そこに入り込むまでにバリアーがあります。それをクリアしてやっと生徒たちへの宣伝があります。依頼の方法が紙ペラ一枚持って行き、お願いしますでは駄目です。まずは協会内で専任者を置き、高校生募集の趣旨や国際交流事業への参加目的とそのメリット、期待される役割

などを明確にすることが大事です。そこを踏まえた上で資料を作り、20分でも30分でも時間をもらい、部活の中で今回この時間を取ってやっていただけませんか？…そのように面と向かって依頼しなければなりません。もう一つは当協会の認知度を上げていかなければならないということ。国際交流活動に興味を引かせるには文章を読ませるのではなく、目に訴えなければならぬこと。それにはパワーポイントを使っての啓蒙活動が一番有効だと思います。非常に細かな準備が必要になりますが、このような方法は遠回りするようで近道かなという感じです。公民館等での英会話サークルへも同様です。私の方で一応ターゲットは調査済みです。

花島 八千代市の国際交流というものをちゃんと立ち上げようと、市民、各団体、みんなで団結した方が良いと思います。

■ 行動しないと何の意味もない

司会 最後に一言ずつお願いします。

花島 協会内の一体感と市内の国際交流というキーワードに関わる方々と各種団体との連携みたいなことは、取り組むべき課題ですね。

鎌田 良いことをいっぱい議論しても、行動しないと何の意味もないです。本当に具体的にできることから一つでも二つでも行動に移していかないと何も変わらないし、何も前に進まないのでは是非、行動しなければと思います。

喜田 会員一人ひとりをもっと意識を持ってほしいです。ただ何となくお金持ちのサークル活動みたいになっている部分もありますので。

高橋 イベントを具体的に重ねていくことはとても大事なことですが、並行して我々自身のアピールポイントも予めきちんと明確にしておくべきではないということです。

司会 いろいろとご意見が出ましたが、皆さんの協会です。これから協会が良くなるにしろ、悪くなるにしろ、この貴重なご意見を皆さんで考えていかなければなりません。本日は本当にありがとうございました。

■ 2018年度の八千代市国際交流協会役員・会員数は次のとおりです

□名誉会長／八千代市長・服部友則、前八千代市国際交流協会会長・周郷紀男 □相談役／八千代市議会議員・山口勇 □会長／小林公孝 □副会長／江川典一・喜田茂・鈴木康彦 □会計／藤江潔・嶋野勝美 □理事／小川剛毅・高橋雅昭・廣田敬治・鎌田久美子・高野多美子・柴田ひさ・花島美記 □監事／川島慎一・中嶋功《敬称略・順不同》

□個人会員／136人 □家族会員／15家族 □団体会員16団体（明るい社会づくり八千代市推進委員会・八千代市医師会・八千代市管工事共同組合・八千代市芸術文化協会・

八千代市社会福祉協議会・八千代商工会議所・八千代青年会議所・八千代市農業協同組合・八千代東ライオンズクラブ・ボーイスカウト八千代地区協議会・八千代市薬剤師会・八千代交通安全協会・八千代ライオンズクラブ・八千代ロータリークラブ・八千代バンコク交流の会・八千代少年少女合唱団）《敬称略・順不同》 ※2018年12月6日現在

訃報 理事としてご活躍されておりました野神良子さんが心不全のため2018年10月24日(水)にご逝去されました。享年71。十数年にわたり協会の事務局、役員として国際交流の発展に尽力されました。特にタイラー市との関係構築に多大の貢献をなされました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(事務局)

夏休みこども日本語教室に小・中学生外国人24人が参加

第12回を迎えた「夏休みこども日本語教室in八千代2018」が2018年8月4日(土)に八千代市郷土博物館で行なわれました。市内に通う外国人、小・中学生24人と母親、支援するボランティア、秀明大学の学生さんなど48人が参加しました。今回は、「ジャンボすごろくゲームを作って遊ぼう!」「理科実験アイスを作ろう」「冷え冷え大作戦」の3つ。大学生のすごろくの説明の後、グループごとに大きなサイコロを作ります。そして、ダンボールに絵の具を塗り、大胆なマス目を作っていきます。5チーム対抗のゲームが開始されると、ため息と応援合戦で盛り上がりました。午後、秀明大学の大山先生と学生の指導のもとアイスクリーム作りに挑戦。アイスの材料と1kgのロックアイス、バスタオルを使って皆で一緒に作り、子供たちは「おいしい」「おいしい」と大喜びでした。最後に学生さんがデモンストレーションとしてドライアイスを使った「アイス」作りを実施。出来立ての「アイス」を食べ、皆さん夏休みの良い思い出となったようです。(日本語ボランティア部会/関戸信雄)



▲指導を受けアイスづくりに挑戦



▲ジャンボすごろくは作りから

▼最後は記念撮影で終わりました



高校生と留学生を中心に国際色豊かな舞台を展開したインターナショナルデイ

2018年9月8日(土)正午から午後4時半までフルガーデン八千代噴水広場で第13回八千代インターナショナルデイが開催されました。

関東大会9連覇の八千代高校鼓組は、部員35人が迫力ある和太鼓を演技し、秀明大学はベトナム、ネパールなど27人の留学生が民族衣装に身を包み歌やダンスを披露。ラテン・バリエダはラテンの数々の名曲を熱演。初出場のビッグバンド・ビーグルは、ジャズの名曲演奏で会場が沸きました。今回も多くのお客を集め、出演者、スタッフが協力し熱演の舞台が実現し輝いた一日になりました。「東あられ本舗」さんには、今年も茶菓の提供でご協力をいただき、感謝申し上げます。(語学ボランティア部会/宮近千世子)



▲息もピッタリのラテン・バリエダ



▲初出演したビッグバンド・ビーグル

▼留学生はダンスを披露しました

▼「鼓組」の素晴らしい演奏にうっとり



「国際ハロウィンパーティー2018」は120人の子供が参加し、華やかに開催

毎年恒例となっている「国際ハロウィンパーティー2018」が10月27日(土)にユアエルム八千代台店・グリーンランドで、120人の子供たちと合わせ、約500人の方たちが集まり華やかに開催されました。

今回は、風船monster作り、店内パレード、サイコロ転がし、そしてダンスのプログラムがあり、特にユアエルム八千代台店のテナント店のご理解とご協力により店内パレードの距離も長くなり、お菓子のプレゼントを頂くお店の数も増え、参加した子供たちは大喜びでした。今回はユアエルム八千代台店とテナント各店、オーエンス八千代市民ギャラリー、八千代リーダーズクラブ(YLC)、そして秀明大学学生の皆さんにご協力をいただきました。(国際交流促進部会/鈴木康彦)



▲テナント店を回り、お菓子を頂きました



▲学生も仮装し子供と一緒に記念撮影

▼YLCのご協力で子供たちにダンスを

▼サイコロ転がしで遊ぶ子供たち



7か国8人の方が参加し、小関ルディアさんに会長賞

2018年11月23日(金・祝)午後、八千代市国際交流協会と八千代市との主催による「第12回八千代市日本語スピーチ大会」が八千代市八千代台東南公共センターで行なわれました。日ごろの日本語教室での学習成果を皆さんの前で発表する機会なので、事前準備とボランティアの努力でそれぞれのレベルでのスピーチが出来たと思います。直前の仕事決定や風邪で結局7か国8人が参加。出来栄は良く審査も難航しましたが、日本国籍取得を目指しているインドネシア出身の小関ルディアさんが会長賞に。服部市長のあいさつの後、登壇者との記念撮影を行い、卒業生でロシア出身のユーリーさんのゲストスピーチが続き、懇親会では「DUO泉」によるハーブ・のこぎり演奏など始終和やかな雰囲気で大会を終了。総参加者数は60人。(日本語ボランティア部会/江川典一)



▲小林会長から小関ルディアさんに会長賞を授与



▲和気あいあいとした懇親会で無事終了

▼服部友則・八千代市長を囲んで記念撮影



日本語ボランティア活動説明会を開催

5月19日(土)八千代市多文化交流センターで日本語ボランティア活動説明会を開催。日本語教室でボランティア活動を希望する方々を対象に実施。(日本語ボランティア部会)



市民活動団体フェスティバル2018を開催

11月4日(日)午前10時からフルルガーデン八千代噴水広場で開催。市内で一番多い外国人は？に皆さん挑戦。協会のPRをしました。(国際交流促進部会)



25周年記念タイラー市受入事業写真展を開催

11月7日(水)～9日(金)の3日間、勝田台駅のステーションギャラリーで「姉妹都市提携25周年記念タイラー市親善訪問団受入事業」の写真展を開催。(国際姉妹都市部会)



第11回英語で聴く講演会を開催

今年ALTのクリスティン・ブラットさんを講師に迎え、12月8日(土)午後2時から八千代市市民会館で開催。テーマは「学校での美術教育」。(語学ボランティア部会)



ALTの皆さん、八千代市へようこそ 日本で英語を教えるのが目標

ジェランダ・デニスさん (テキサス大学)



私は教育的な仕事に携わりたいと考えており、日本で英語を教えるのが目標の一つです。また、昔から教師になりたいと考えていました。そして、自分の国以外で教え、多くの人に影響を与えるような教師を目指したいと考えております。海外で教えることは素晴らしいチャンス。英語の勉強だけでなく、様々な考え方や自分の文化をグローバルな視点で生徒たちに教えたいです。そこで知ったのが姉妹都市八千代プログラムです。長い間憧れていた特別の先生になる機会であり、将来の自分の教職の幅を広げるかもしれないと思い、応募しました。昨年春に関西学院大学へ留学し、素晴らしい人たちと出会い友情が生まれました。この経験が日本で英語を教えるきっかけになりました。(国際姉妹都市部会)

平成30年度篤行者表彰

泉妻敦子氏が受賞、おめでとうございます



泉妻敦子(いずのめ・あつこ)さんは2002年9月から八千代国際姉妹都市委員会で活動を開始されています。2006年4月からは八千代市国際交流協会日本語ボランティア部会東南土曜会にて活動を開始され、現在も活動中です。2008年12月から村上北小学校わくわくクラスにて活動を開始し、現在も活動中です。2011年4月から2013年で東南土曜会の代表を務めております。2014年4月、新設の東南金曜会で活動を開始し、現在も活動中です。このほか2002年、2012年の2回、タイラー市への親善訪問団として参加し、2004年、2007年、2010年、2014年、2017年の5回、タイラー市親善訪問団受入実行委員会の運営委員として活躍されております。(国際姉妹都市部会)

組合員・地域の皆様から
信頼され、支持され、
必要とされ、愛される
JAづくりを目指します

 **JA 八千代市**

八千代市大和田新田 640-1 TEL 047-450-3711 (代)

綺麗な印刷

●総合印刷 ●プリントマネジメント

金子印刷企画

KANEKO

八千代市萱田 410-1 047-450-9163

Wishon where a dream meets

夢かなうウイシュトン

ご宿泊・ご宴会・ご婚礼・お食事

 **Wishon Hotel Yukari**
ウイシュトンホテルユウカリ

〒285-0858 千葉県佐倉市ユウカリが丘4-8-1
TEL.043-489-6111 FAX.043-489-8156
<http://www.wishon.co.jp/>

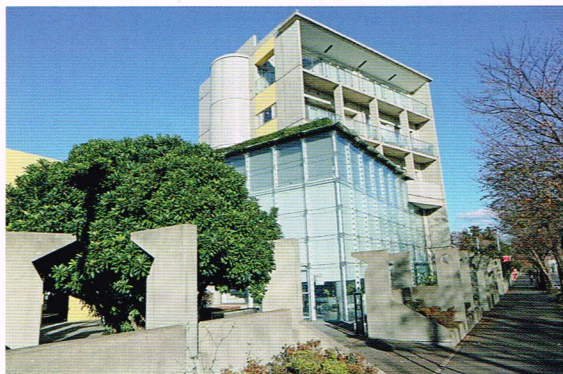
結婚式のできるチャペル・8つの宴会場・中華・フレンチレストランを備え、ビジネス・研修・ご家族の大切で華やかなひとときをご提供いたします。



ライオンズクラブ国際協会
333-C地区5R・2Z
八千代ライオンズクラブ

ライオンズクラブは、地域社会の生活、文化、福祉向上等の奉仕活動を展開し、世界の平和を願う世界最大の奉仕団体です。

- 事務局：八千代市八千代台東1-1-10 ユアエルム4F
TEL 047-482-0525 FAX 047-486-0113
- 例会日：第2・4水曜日 PM7:00～



地域の発展と共に歩む

創業昭和2年 建設・設計・施工

 **と 周郷建設株式会社**

会長・周郷紀男 代表取締役社長・周郷寿雄

八千代市大和田新田406/電話 047-450-3024(代)/ファックス 047-450-0576

株式会社
Yes! 川島不動産

なんでもご相談下さい

代表取締役

川島 慎一

Shinichi Kawashima

宅地建物取引士
不動産コンサルティング技能登録者
shinichi@kawashima-re.co.jp



株式会社 川島不動産

社団法人千葉県宅地建物取引業協会会員
千葉県知事免許(13)第3137号
東京海上日動火災保険代理店

〒276-0023
千葉県八千代市勝田台
2丁目1番地2 川島ビル1F
TEL:047-483-2652(代)
FAX:047-483-2168

<http://www.kawashima-re.co.jp/>

▲「夏休みこども日本語教室in八千代2018」を8月25日に開催(日本語ボランティア部会) ●「国際ハロウィンパーティー2018」を10月27日に開催(国際交流促進部会) ●「25周年記念タイラー市受入事業写真展」を11月7日から9日まで開催(国際姉妹都市部会) ●「第11回英語で聴く講演会」を12月8日に開催(語学ボランティア部会) ●「第12回八千代市・日本語スピーチ大会」を11月23日に開催(日本語ボランティア部会) ●「第13回八千代インターナショナルデイ」を9月7日に開催(実行委員会)